

ARTISAN STORY つくり手を訪ねる



瓢河屋野村

「本物しか作らない」

手作り一筋、三ツ星醤油

theme2 日本が誇る調味料醤油。そのルーツとは?

日本の醤油の誕生は鎌倉時代にさかのびります。その始まりは、ひとりの僧侶が中国の浙江省の臨山寺から秋晴の醸造法を持ち帰ったことから。当時、海賊は紀州（現在の和歌山県田辺市）に西方寺（後の圓鏡寺）を開き、臨山寺で学んだ秋晴の醸造法を近所の人たちに伝えていきます。そしてある日、この『臨山寺味噌』（後の圓鏡寺）で、その漬物を作てみたところ、大変美味しいと、その漬物がやがて独立した調味料として作られるようになっていった。これが醤油の始まりと云われています。

その後、日本で初めて「醤油」の文字が文勘に現れたのは、室町時代。當時は貴族階級や武家社会でしか使われない高級な調味料でしたが、江戸時代になると醤油は庶民のあいだにも幅広く使われるようになっていきます。

ちなみに醤油作りが開拓へと伝わっていったのは、17世紀の中頃。紀州商人たちが黒潮に沿って開拓へと移り住んだことがきっかけに。今では紀州の醤油の一一大産地として知られる鳴子や野田も、そのルーツをさかのぼれば、こうして奥国寺へと戻っています。

theme3 開拓「瓢河屋野村」のはじまり

一説によれば、興國寺近くの水は鹽漬にはあまり向かず、水質の良い瀬戸内海傍で醤油作りが盛んになっていたとも。その瀬戸で、やはり寺住僧の『臨山寺味噌』と『三ツ星醤油』を作り続けている老舗が、「瓢河屋野村」です。

創闘は元禄年間（1688年～1709年）。元々は醤油問屋を営んでいたところ、当時、幕末先への土産用に作っていた『臨山寺味噌』と醤油が評判となっていたため、それでいつしか家庭に。それ以来、300年あまり17代（本家）になってからは、（13代）野村太兵衛さんと長吉に運ばれて、かたくなに守ながらの伝法を守り、手作り一筋に醤油屋の味を守っています。

theme4 手作り一筋、DEAN & DELUCAでも一押しの、三ツ星醤油。



100年以上の歴史を誇る老舗、もろみの大樽。

香り高い醤油、丹波守りには丹波の匂い「もろみ」作りが必須。『瓢河屋野村』では、糀を食塩とともに、100年以上使っているという糀の最大の大樽に仕込みます。糀要小屋糀は廻し(或循環)の能力で育繁殖しており、「もろみ」となって熟成。

この越り過しによってもたらすには、先々仕込まれてきた糀がが詰めづらくなります。(木樽一筋に育成しているタンクと違って、表面だけを洗っても頭がしみ込んでしまいます)。結果的に詰め難くなります。

そしてこの頭を挽め、糀と土屋など、巻きに渡って糀の量のところに手を磨いている巻母や乳頭磨が、醤油の性格と繋がります。

醤油作りの心臓部、「瓢河屋野村」の醤油には100年以上の年輪を刻んだ22石入の木樽が16個並んでいます。この木樽でもろみを充份、熟成させます。そのほかに小樽を専門とする相馬、火入れ用の釜……すべての道具が人の手仕事に見合った最高規格のものになっています。

こうした伝統醸法の本來の醤油は、十分煮沸した大豆と煮つた小麦を混ぜて醤油を搾り、出来た頭を氷塊とともに仕込んで真頭頭がけゆっくり熟成させます。糀の調理の上に、さらに糀要小屋の絶妙な温度管理は、時間と資源と費用とが十 分に活用して初めて出来る技であることはもちろん何にも変わりません。「手作りは生きるほど、香りが豊らわような気がします」と、野村さんは言います。

「そのままお刺身やお漬物、湯豆腐などにお使いになると、なお一層、眞価が発揮いただけますよ。生のままの醤油のうまさこそ、まさに、「本物」の証ですから」と野村さん。実際販売時には、野村さんの奔放な表現さんが右も左も変わらぬまま、「手作りは生きるほど、香りが豊らわような気がします」と、野村さんは言います。

また、今回取材に会った際、仕込み真殿中だった臨山寺味噌は、豆と荀子、索餅、生姜など夏に暑れた野菜を冬までおいしく食べる保存の知恵からできたもの。この「おお味噌」もまた、秋の漸寒のおともに、肩のつまみに最適です。

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

ブルネット
レオナルディー
宝泉堂
松之助
瓢河屋野村
しむら牧場
飯尾酒造
木谷蒼峰園



D OFFICIAL BLOG
オフィシャルブログ



料理教室のご案内
シーズンカタログのダウンロード
メンバーズカードのご案内
サンキューカードのご案内
ギフトカードのご案内
取扱商品について
会社概要
DEAN & DELUCAについて
採用情報
法人のお客様へ
お問い合わせ

「瓢河屋野村」の商品ラインナップ



瓢河屋野村 三ツ星醤油
630円 / 200ml



瓢河屋野村 臨山寺味噌
1,260円 / 400g

13代続く蔵元が大事にしてきた

本筋の香り

食べる味噌だけではなく、
「調味料」としても、
※六本木店、昆島店、名古屋店に
て販売